

## 第1版

# 2023年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部 における 6人制ルールの取り扱いについて

（公財）日本バレーボール協会審判規則委員会による『2023年度6人制ルールの取り扱い』に基づき、「（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部」において協議・検討を加え、「2023年度の6人制ルールの取り扱い」を決定しました。

## 【1】 競技参加者の行為に関する事項

### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

### 20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

#### （注）

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

#### 【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

#### 【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。

- 4 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 5 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連でも同様に扱う。

※ 軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぎ、中学生にフェアプレーの精神を身に付けさせるために、躊躇することなく、早い段階で、ステージ1またはステージ2を与え対処すべきである。

※ ただし、中学生は、上記のような対処を知らない場合があり、必要に応じて説明し、礼儀正しく行動するよう指導すること。

~~5 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの握手については、これを奨励し、協力を求めていく。~~

## 【2】 プレーの動作に関する事項

### 9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは、身体のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

### 9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前に、ボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 条⑨)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げること。この場合、ボールはヒット後、接触している所から離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑰)

9.3.4 ダブルコンタクト：1 人の選手が連続してボールを 2 回ヒットすること、またはボールが 1 人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑱)

#### (注)

- 1 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
  - ・腕が伴うようなプレーは明らかなヒットではない
- 2 指先 (the pads of finger and thumb/指及び親指の腹) を用いたティップは許されるが、その際、手を伴ってはいけない。

3 **ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。**このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。

(反則となりうるケースの例)

①肘をまげてボールに接触し、その肘を完全に伸ばしてプレーした場合は、ボールを運ぶことになるため、キャッチである。

②肩のラインの後ろでボールに接触しボールを運ぶプレーや、ボールを相手方ブロックに押しつけ方向を変えて押し出すプレーについては、ボールに手を伴って運ぶ時間が長いいためキャッチの反則となる。

4 ブロックにおいても、基準は同様である。

中体連でも同様に扱う。

※ 審判員の資質向上がバレーボールにおける競技力向上に資することを踏まえ、これまで同様、プレーを的確に判定するものであり、判定基準が厳しくなったものではないことから、各ブロックや都道府県における伝達では、指導者や選手に誤解を与えることのないよう、実技研修を取り入れるなど、配慮する必要がある。

### 【3】 プレーの構造に関する事項

#### 7.4 ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定され、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターライン遠い位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

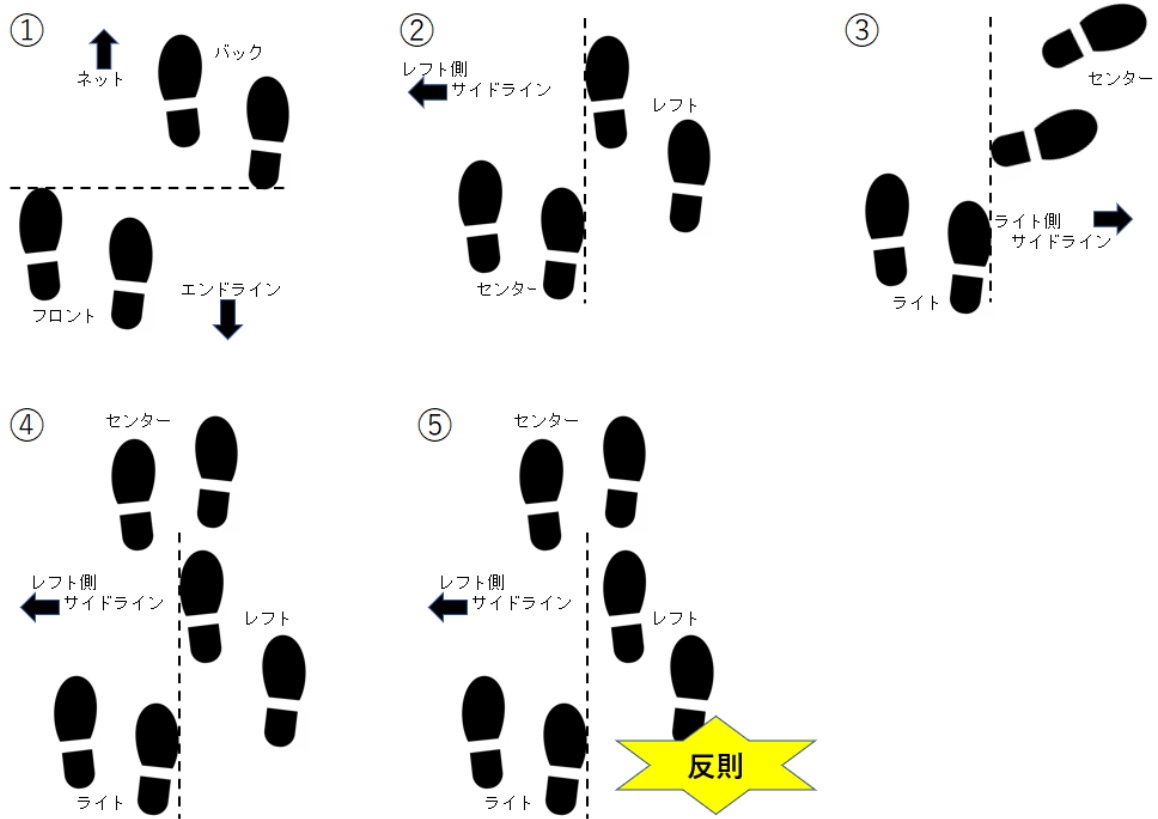
(注)

1 サービスが打たれた瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

2 バックプレーヤーの両足よりも、対応するフロントプレーヤーの両足が完全に後方に位置しなければ、反則とはならない。

3 ライト（レフト）サイドプレーヤーの両足よりも、同じ列のセンタープレーヤーの両足が完全に右（左）側に位置しなければ、反則とはならない。

4 したがって、下図①から④はいずれも反則とならない。



中体連でも同様に扱う。

### 7.3 スタートラインアップ

7.3.4 ラインアップシートがセカンドレフェリーまたはスコアラーに一度提出された後は、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。

(注)

両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終わったら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スタートラインアップの選手が負傷した場合は、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することが可能である。

なお変更は、ラインアップに記載されている負傷した選手のポジションに限る。

また、この取り扱いは負傷したケースに限る。

中体連でも同様に扱う。

## 【4】 中断に関する事項

### 15.2 正規の試合中断の連続

15.2.4 中断の要求を拒否され、ディレイワーニングが適用された場合は、同じ中断中に（すなわち、次のラリーが完了する前に）正規の中断の要求をすることはできない。

#### 15.11 不当な要求

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である：

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。（規則 12.3）

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。（規則 5.1.2.3, 5.2.3.3）

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷、病気、退場、または失格の場合を除いて、同じチームが同じ中断中（次のラリーが完了する前）に 2 回目の選手交代を要求すること。（規則 15.2.2, 15.2.3）

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。（規則 15.1）

15.11.2 試合での 1 回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、スコアシートには記録される。

（規則 16.1）

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合、遅延行為とみなされる。

（規則 16.1.4）

#### （注）

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1 の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、ディレイワーニングが適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、セカンドレフェリーは、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、スコアシートに記録される。
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。セカンドレフェリーは1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、スコアシートに不当な要求として記載する。もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

中体連でも同様に扱う。

## 15.8 退場または失格での選手交代

退場または失格となった選手には、直ちに正規の選手交代が行われなければならない。もしもこれができないときは、チームには例外的な選手交代をする権利がある。これもできない場合は、チームは不完全を宣告される。(規則 6.4.3, 7.3.1, 15.6, 21.3.2, 21.3.3)

(注)

- 1 退場を受けたチームメンバーは、直ちに正規または例外的な選手交代をして、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。退場となった監督は、そのセットでは試合に介入することができず、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならない。
- 2 失格となったチームメンバーは、コート上にいる場合は直ちに正規または例外的な選手交代をして、試合終了まで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。

中体連でも同様に扱う。

※ 日本中体連においては、監督が退場・失格になった場合、試合を続けることはできない。

ただし、監督に代わり引率責任を負える者が会場内にいる場合は、試合を続けることができるが、退場・失格になった監督はその後その試合に復帰することはできない。

## 【5】 チームリーダーに関する事項

### 5.1 キャプテン

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまで、その責務を担う。

ボールがアウトオブプレーのとき、ゲームキャプテンだけが次の場合、レフェリーへの発言を許可される：

5.1.2.1 競技規則の適用や解釈について説明を求める。チームメイトの要求または質問を伝える。もしもゲームキャプテンがファーストレフェリーの説明に納得できない場合は、ファーストレフェリーの決定に対する抗議を選択してもよい。その場合、試合後にスコアシートに正式抗議を記入する権利を確保するため、直ちにファーストレフェリーに申し出る。

(規則 23.2.4)

### 5.2 監督

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップと交代選手を選び、タイムアウトを要求する。これらの役割に関わるのは、セカンドレフェリーである。

5.2.3.4 他のチームメンバー同様に、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。もしも、ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合、監督は自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

(注)

- 1 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。
- 2 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

中体連では、部活動における適切な指導や競技場設定の観点から、**全国大会の決勝と準決勝を除き、ラリー中はベンチに着席するようお願いをしているが、ラリー中やラリー後におけるレフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、中体連も同様に直ちに罰則を適用する。**